

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



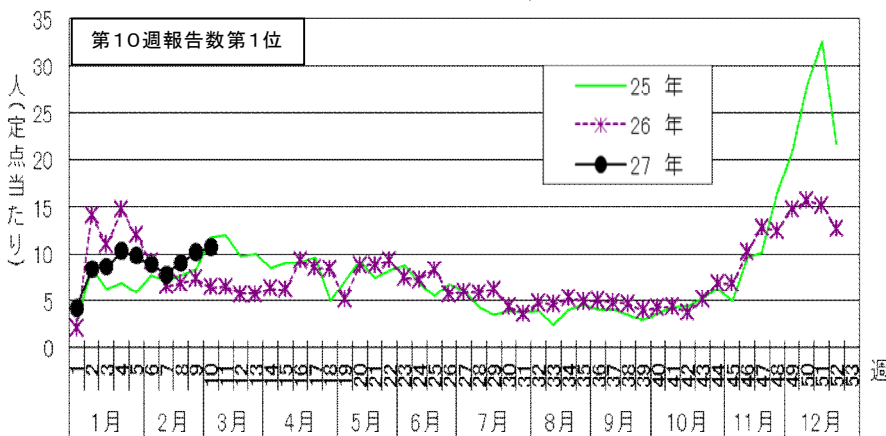
KAWASAKI CITY

平成27年3月2日（月）～平成27年3月8日（日）〔第10週〕の感染症発生状況

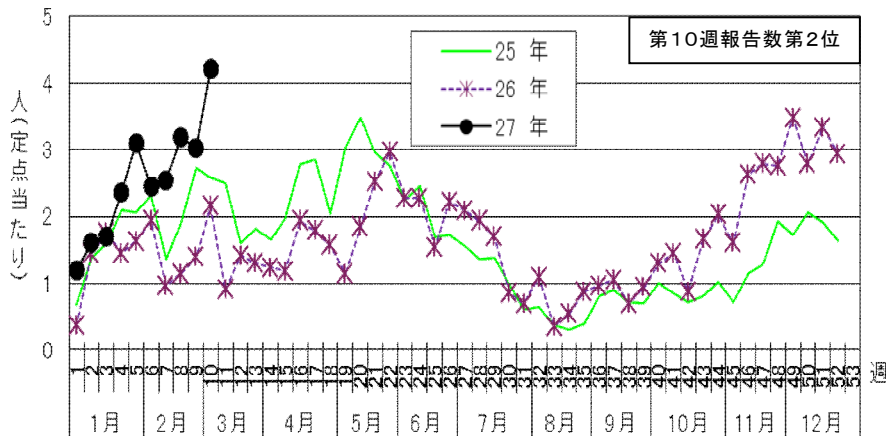
第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.79人と前週（10.24人）からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.21人と前週（3.03人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.06人と前週（4.52人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)

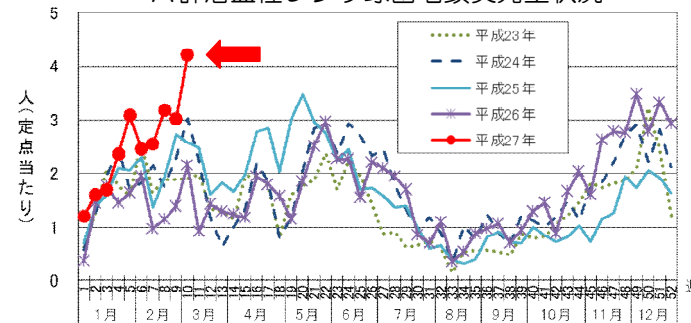


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者が増加しています！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年初夏（5～6月）にかけて患者数が増加しますが、川崎市では第10週における定点当たり患者報告数が4.21人となり、例年の報告数を大きく上回りました。特に多摩区で多く、4～7歳の就学前後のお子さんの報告が増えています。

熱やのどの痛みがおさまっても、途中で抗生薬の服用をやめると、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などを引き起こす危険性がありますので、医師の指示どおり服用を続けることが重要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛で発症する疾患です。潜伏期間は2～5日で、体や手足に小さくて紅い点状の発疹が出たり、舌がイチゴのように赤くポツポツ

した状態（莓舌）になることもあります。

治療には抗生薬が有効ですので、早めに医療機関で診断を受けて、指示どおりに薬を飲みましょう。

